

四万十市	江ノ村の一部
------	--------

### 打合せ経費

名称	規格	員数	単価	金額	備考
測量主任技師					着手・中間・最終
測量技師					着手・最終
測量技師補					中間
合計	(人件費)				

打合せ経費計上額      0円

### 測量調査業務旅費交通費内訳書

#### 1. 調査測量業務交通費

名称	数量(日)	単価	金額
技師・技師補の 内の最大値			
合計			

#### 積算内訳

ライトバン損料	運転時間当り	193円 × 1時間 =	円
ライトバン損料	供用日当り		円
燃料代(ガソリン)		142円 × 2.7ℓ =	円
		合計	円

※ライトバン運転 1.0時間当りガソリン数量 2.7ℓ (高知県土木工事標準積算基準)

交通費計上額      0円

#### 2. 調査測量業務日当等

四万十市職員の旅費に関する条例に準じ計上しない。

作業区分の変化率の算定【江ノ村の一部】

実施面積	: 0.70 km <sup>2</sup>				※表〇-〇は地籍調査事業費積算基準書より
一筆平均面積	: 608 m <sup>2</sup>	(調査前)			
	: 950 m <sup>2</sup>	(調査後)			
縮尺	: 1/1000	視通条件	: 山Ⅱ		
精度	: 乙2	筆の形状	: 不整形		
傾斜条件	: 中傾斜	計画区からの距離	: 6.0 km		

変化率の算定

C工程 = (  $\alpha_C \times Y_C$  ) × 実施面積

$\alpha_C$  = 1.35 表1-13

$Y_C$  = 1.00 表1-23

= ( 1.35 × 1.00 ) × 0.70

= **0.95**

FⅠ工程 = (  $\alpha_{FⅠ} \times \beta_{FⅠ} \times \gamma_{FⅠ} \times \sigma_{FⅠ} \times \varepsilon_{FⅠ}$  ) × 実施面積

$\alpha_{FⅠ}$  = 1.35 表1-13

$\beta_{FⅠ}$  = 1.46 表1-18

$\gamma_{FⅠ}$  = 1.27 表1-19

$\sigma_{FⅠ}$  = 1.00 表1-21

$\varepsilon_{FⅠ}$  = 1.00 表1-22

= ( 1.35 × 1.46 × 1.27 × 1.00 × 1.00 ) × 0.70

= **1.75**

FⅡ-1工程 = (  $\alpha_{FⅡ-1} \times \beta_{FⅡ-1} \times \gamma_{FⅡ-1} \times \sigma_{FⅡ-1} \times \varepsilon_{FⅡ-1}$  ) × 実施面積

$\alpha_{FⅡ-1}$  = 1.35 表1-13

$\beta_{FⅡ-1}$  = 1.58 表1-18

$\gamma_{FⅡ-1}$  = 1.48 表1-20

$\sigma_{FⅡ-1}$  = 1.00 表1-21

$\varepsilon_{FⅡ-1}$  = 1.00 表1-22

= ( 1.35 × 1.58 × 1.48 × 1.00 × 1.00 ) × 0.70

= **2.21**

E工程 = (  $\alpha_E \times \gamma_E \times \sigma_E$  ) × 実施面積

$\alpha_E$  = 1.35 表1-13

$\gamma_E$  = 1.37 表1-20

$\sigma_E$  = 1.00 表1-21

距離係数 = 0.10 表1-17

= ( 1.45 × 1.37 × 1.00 ) × 0.70

= **1.39**

E工程 = 標準本数 ×  $\gamma_{FⅡ-1}$  ×  $\sigma_{FⅡ-1}$  × 実施面積

(筆界点等本数) 標準本数 = 2,880 表1-7 (筆界杭:単価 304 円)①

$\gamma_{FⅡ-1}$  = 1.48 表1-20 (アルミナンバープレート+止釘 45 円)②

$\sigma_{FⅡ-1}$  = 1.00 表1-21

筆界杭 = 2,880 × 1.48 × 1.00 × 0.70 = 2983.68 ≒ 2,984 本③

アルミナンバープレート+止釘 = ③ = 2,984 枚④

所要材料費 = ③ × ① + ④ × ② = 円⑤

雑品費 = 0 × 0.5% = 円⑥

杭代 = ⑤ + ⑥ = **円**